

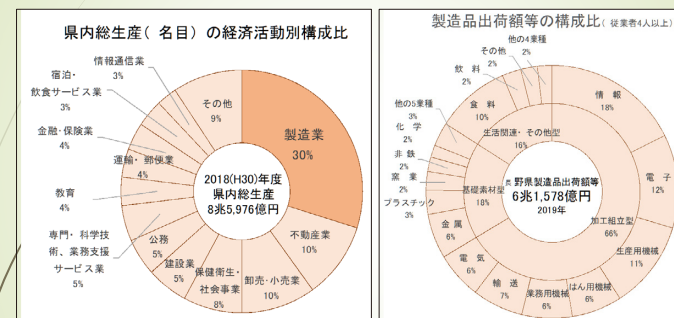


2 信州共用機器ネットワーク

- ➡ 設立経緯と概略
- ➡ 活動成果
- ➡ 今後の課題



4 長野県の産業構造



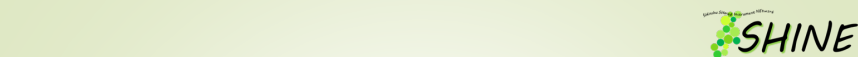
製造業（特に情報機器、電子機器、機械などの加工組立型）が多い
→ 企業の製品開発・評価等に寄与する必要がある



信州共用機器ネットワーク (SHINE) の取組み概要

1

信州大学基盤研究支援センターコアファシリティ推進室
副室長 中田 勉



3 信州共用機器ネットワーク

- ➡ 設立経緯と概略
- ➡ 活動成果
- ➡ 今後の課題

5 信州共用機器ネットワークの設立

名称：信州共用機器ネットワーク
(Shinshu shared instrument network: SHINE)

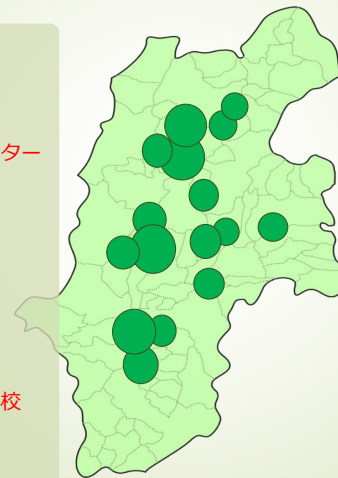
目的：参画する大学・公設試験場等が保有する研究開発用機器の共同利用化を促進し、組織の垣根を超えて企業や学術研究機関等が活用することにより、科学技術の振興、産業の拡大、イノベーションの創出に貢献する

本ネットワークは、文部科学省「先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）」の取り組みのひとつとして2022年12月に設立されました。

6 SHINEの概要（1）参画機関

参画機関（計16機関）

- 長野工業高等専門学校
- 長野県立大学
- 清泉女学院大学
- 長野県工業技術総合センター
- 長野保健医療大学
- さかきテクノセンター
- 長野大学
- 長野県工科短期大学校
- 松本大学
- 松本看護大学
- 松本歯科大学
- 佐久大学
- 公立諏訪東京理科大学
- 長野県南信工科短期大学校
- 長野県看護大学
- 信州大学

コアファシリティ事業
協力機関

- ◇慶應義塾大学
- ◇東京都立大学

連携ネットワーク

- ◆りょうもうアライアンス
- ◆みやぎきファシリティネットワーク
- ◆北陸ファシリティ・技術人材ネットワーク
- ◆おきなわオープンファシリティネットワーク
- ◆とっとりイノベーションファシリティネットワーク

7 SHINEの概要（2）運用体制

信州共用機器ネットワーク規約 第13条2
本ネットワークで共同利用化する研究開発用機器の運営に必要な事項は、当該機器を所有・管理する機関・部局・施設が別に定める。

利用形態（受託、利用料、共同研究など）、予約方法（SimpRentからの直接予約、メール）などは、すべて各参画機関が独自に決定する。

機器運用において、SHINEは参画機関・協力機関の保有する共用機器の可視化、検索ツールとしての機能に特化している。

8 SHINEの概要（2）
機器予約システム「SimpRent」

<https://shinshu.simprent.jp/>



ログイン画面



機器検索画面

- 参画機関の登録機器を一括で検索・予約することができます！
- 地域企業の研究者等、参画機関外の方もご利用いただけます！

9

登録機器の例



共焦点レーザー顕微鏡



高分離能フーリエ変換核磁気共鳴装置



nanoLC-QTOF質量分析装置



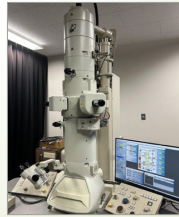
アイスクリーム製造機器
(長野県工業技術総合センター)



金属3Dプリンタ
(さかきテクノセンター)



セルソーター



汎用透過型電子顕微鏡



SimpRentで検索・予約！



10

信州共用機器ネットワーク

➡ 設立経緯

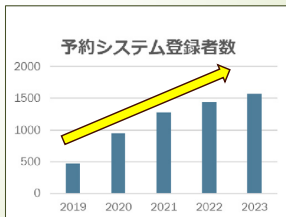
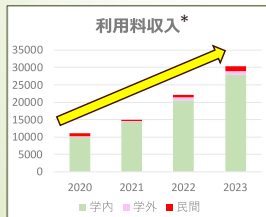
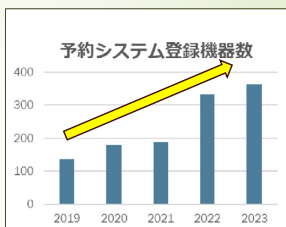
➡ 活動成果

➡ 今後の課題



11

共用機器登録数、利用件数などの推移



*信州大学のみの利用実績

登録機器数の増加に伴い、利用件数、利用料収入は増加傾向



12

長野県産業振興プラン



県の産業振興プランにも大学設備の共同利用が取り上げられている



13

廃棄予定機器の無償譲渡



Waters nano ACQUITY UPLC, Xevo QTOF

SHINEにおける技術者間の交流により、信州大学と県公設試で同型機器を保有することが判明した。

信州大学において廃棄予定となった当該機器の部品を、県の公設試にスベアとして無償譲渡した。

研究設備の多くは減価償却期間以降も使用できることが多く、ネットワーク参画機関で融通し合えば全体の運用コストが下がることが期待できる。

14

参画機関が参加できるオンライン/ハイブリッドセミナー開催



信州大学主催セミナー



協力機関主催セミナー

信州大学、協力機関を含め、17回以上のセミナーを開催

15

信州共用機器ネットワーク

- ➡ 設立経緯と概要
- ➡ 現状と成果
- ➡ 今後の課題

16

今後の課題

- ➡ 民間企業による利用の推進
→ 地域研究力の活性化、共用部門の自立化
- ➡ 人材交流の活性化
→ 技術職員の高度化
- ➡ 参画機関における機器共用体制の推進・支援
→ 共用文化の醸成
- ➡ 適切なアウトカム指標の設定と計測
→ ネットワーク化による利益とはなにか

17 ご清聴ありがとうございました

Shinshu Shared Instrument Network

